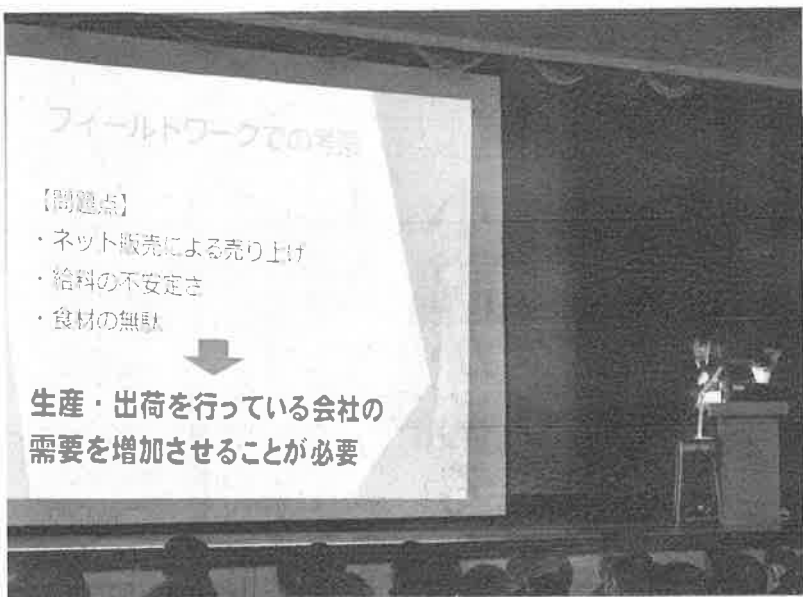


能代高 地域課題を考察、提言

探究活動発表会
コロナの影響も取り上げ

能代高(山田浩充校長)で20日、1、2年生が取り組んだ探究活動の「優秀発表会」が開かれた。各学年の代表生徒、グループが登壇し、1年かけて調べてきた地域課題とその解決策を発表した。

探究活動は、同校のキャリア教育「ニューウィルプロジェクト」の一環。関心のある地域課題について、フィールドワークや文献調査、インタビューなどを通



1年間の活動成果を発表する生徒たち(能代高で)

して理解を深め、解決策を提言する内容で、1年生はグループごと、2年生は個人で活動を行う。

優秀発表会は、昨年11、12月に行われた学年ごとの発表で評価が高かった計11組・人が登壇。例年は保護者や活動に協力した外部講師らを招いているが、新型コロナウイルス感染症予防のため、1、2年生と教職員のみが参加とした。

1年生の平澤創一郎君らのグループは「農業におけるコロナの影響」販売を促進させるための取り組み」と題して発表。新型ウイルスの影響で、市内の農業法人やスーパーなどでは顧客の減少や休業によって、行き場のない農産物が増加したことを問題提起した。

フィールドワーク先の事業所の声を受け、「生産や出荷を行っている会社の需要を増やすことが必要」と考察したほか、解決策として▽能代市専用のインターネット販売ホームページを作成し、生産者の顔や食材の

魅力をアピール▽仕事が減少している運送業者に協力を求め、消費者に商品を配達▽飲食店やホテルなどの

余った食材をスーパーなどで販売—といった食材を無駄にしない工夫を提案した。

1/26
北
羽